9月定例会 市政を問う 一般質問

佐藤生稔（さとういきみ）

市民の病院として充実を

質問 公営企業法全部適用病院への移行は、来年4月1日が妥当と考えるがどうか。
また、病院事務長の人材確保と硬直化した人事配置に問題はないのか伺う。

答弁 市長 全適移行は、年度の区切りが好ましいと承知しており、現在努力しているところです。

答弁 総務部長 事務長の果たす役割と病院事務の特殊性を検討し、市職員として幅広い分野で能力発揮ができるような人事管理に努めます。

国道326号のバイパスを

質問 三重中心市街地の交通渋滞と中央農免道路の交通量増加の解決策は。

答弁 建設部長 内山・前内田区間の早期計画化に向け「三重新殿線バイパス建設促進期成会」と一体で取り組みます。

▲建設中の三重新殿線バイパス（国道326号と交差）

「お母さん」の声を聞いて

質問 子育て支援にはポリシーとスピードが必要。
市民と協働で取り組んではどうか。

答弁 保健福祉部長 現在の三重ふれあい児童館は狭く、サークル活動も満足にできない状況です。
子育て支援の拠点的機能を備えた児童館の設置など、安心して子育てができる環境づくりをします。

橋本祐輔（はしもとゆうすけ）

米飯給食の存続は

質問 来年4月から緒方、清川、大野、朝地の給食調理場をひとつにまとめた西部学校給食調理場が稼働する。
緒方町では合併時までは完全米飯給食を実施してきたが、合併した昨年の4月からは月に1回はパン食となっている。現状の米飯回数維持は可能か。

答弁 教育長 パン食の状況は、犬飼町と千歳町が週2回、三重町が週1.5回、清川町、朝地町、大野町が週1回、緒方町は、月1回となっています。
基本的には給食内容に大きな差が生じるべきでないと考えています。
米飯給食を含め献立については、今後、学校関係者および市学校給食運営委員会などで十分協議していきたい。

食教育と地産地消の推進を

質問 総合的食教育の推進と具体的な取り組みは。

答弁 教育長 食育は、栄養職員が柱となって、児童生徒が食に関する知識と望ましい食習慣を身に付けるよう、家庭と連携して推進している。
新調理場の栄養職員は、県に1名の加配をお願いし、2名の栄養職員の配置を考えている。
学校給食での地場産品の活用は食育の重要な取り組みで、公社などを主要な納入者として体制づくりをしていきたい。

緒方町給食の歴史

昭和32年	「温食」と名付けて給食が始まる。
昭和43年	町内全校の学校給食が開始される。
昭和51年	学校給食制度に米飯給食が正式に位置付けられる。　週1回
昭和52年	週2回
昭和53年	週3回
昭和54年	県下初の週5回、完全米飯給食が始まる。